

那賀川流域の風土に刻された災害の宿命 ～災害の世紀に突入・防災を考える～

平成 25 年 11 月 21 日（木曜日）阿南市文化会館で、『那賀川流域の風土に刻された災害の宿命』をテーマとした講演会が開催されました。

講師に山口大学時間学研究所客員教授・富士常葉大学名誉教授の竹林征三氏（工学博士）を迎え、講演会には四国地区内外から、約 140 名の参加がありました。

約 2 時間の講演の概要は「日本は災害大国で、九難(苦難)との戦いの宿命にあり、その戦いの痕跡は各地の地名や民話等に刻される(刻まれている)」という風土工学の視点から那賀川流域の災害・防災を考えるというものでした。



講演会パンフレット



講演会会場の様子



竹林氏講演中の様子

参加者からは、

「物事を見るのに一面（数量等）からだけでなく、多方面から見ることの重要性をあらためて認識した。」

「地に足のついた具体的な分かりやすい講演だった。」

「水防・災害を語るには歴史・風土を繙くことが重要と考えると、興味深い。」
「過去の災害における残された地名や書物などから事前の備えの重要性が良く分かった。」

などの様々な感想を寄せて頂き、講演会は終了しました。